

おうちの防災対策を チェック!



おうちの安全はOKかな? かぞくいっしょに、半年に一度はチェック!

1回目

年 月

2回目

年 月

危険物の落下防止

割れやすいモノ、落ちると危ないモノは、家具の上など高いところに置かない!

ガラスの飛散防止

専用のガラス飛散防止フィルムを貼ったり、ガラスが割れた時に飛び散らないよう、カーテンやレースを引いておきましょう。

家具の転倒防止

突っ張り棒や固定金具で、家具をたおれないように。家具の下にストッパーやすべり止めシートをひきます。



本や食器の落下を防ぐ

本や食器の下には、落下を防ぐテープやシートを、扉は固定器具などで、開くのを防止しましょう。

テレビの固定

テレビは粘着マットや固定器具で、テレビ台や壁と固定しましょう。



そのほか、こんなことも事前に チェックしましょう!



非常用持ち出しバッグの用意

飲料水、食品、救急用品、衛生用品など、避難場所で過ごすために必要なものを、あらかじめバッグに用意しておきましょう。食料や飲料水の備蓄は、1週間分がのぞましいと言われています。



近くの避難場所、避難経路をチェック!

お住まいの自治体のホームページや国交省のハザードマップを事前に手に入れて確認しておきましょう。

避難場所

安否用の連絡方法を確認

災害用伝言ダイヤルは、局番なしの「171」

連絡先(家族・友人・会社など)



ぼう さい 防 災 ハンドブック

— ガスが家に届くまで —



わたしが
防災について解説します!

なまえ





～ガスが家に届くまで～ ガスの防災対策を見ていきましょう!

LNGタンカー

世界中のガス田でとれた天然ガスを、 -162°C まで冷やして液体にしたもの(LNG)を、日本まで運ぶ船。



LNG基地

タンカーで運ばれてきたLNGをためておきます。皆さんの街に届けるときには、海水をかけて気体にもどし、安全のためにニオイをつけて送り出します。



供給司令センター*

ガスをきちんと届けるために、ガスの流れや量を、いつも見守っています。大地震が起きたときは、いち早く情報を集め、街の安全を守ります。



ガスライト24*

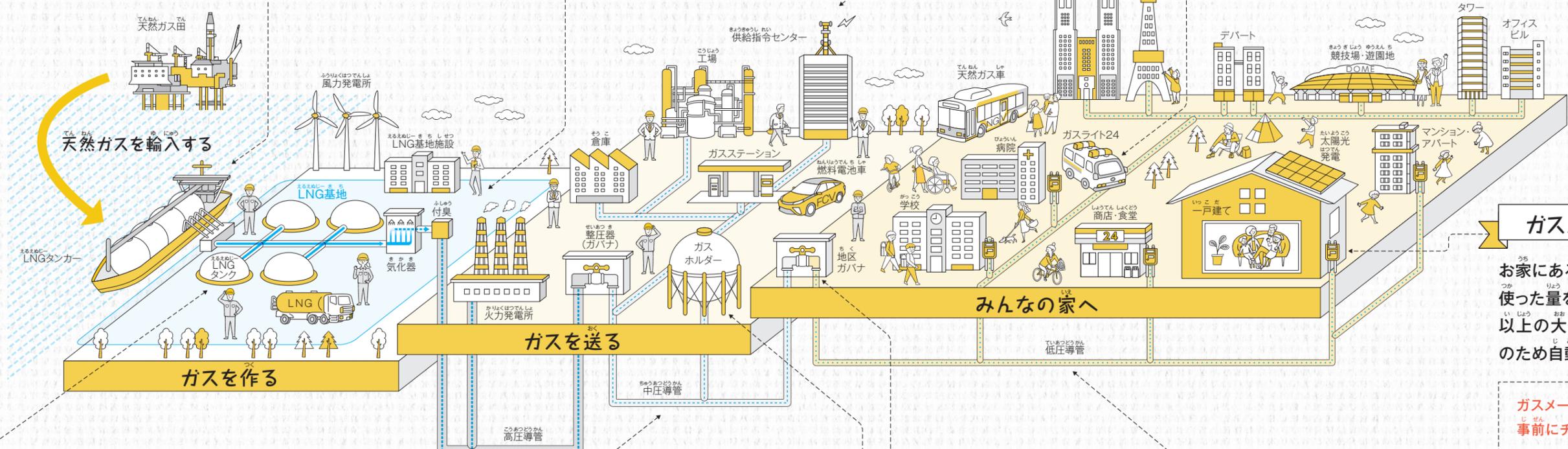
ガス漏れの通報があると、すぐに緊急車両でかけつけて対応し、安全を守ります。



一般的なガスメーターの復帰操作方法

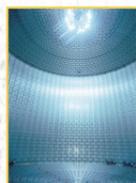
- ①止める**
震度5程度以上の地震でガスが止まったら、復帰の準備として、ガス機器すべてを止めましょう。
- ②押す**
赤いランプが点滅しているのがガスが停止しているサイン。まずは復帰ボタンのキャップをはずし、ボタンを奥までしっかり押して、ゆっくり手を離すと、赤ランプが再び点滅します。
- ③待つ**
復帰ボタンのキャップを元に戻し、約3分待ちます。(この間、ガスメーターがガスもれがないか確認をします)
- ④使える**
3分後に、赤いランプが消えたら、ガスが使えます。

ガスメーターの種類も増えたので、詳しくは、家のガスメーターについている絵札を見てね。



LNGタンク

タンカーで運んできたLNGを液体のままためておきます。これまで大きな地震でもガスが漏れたことはありません。



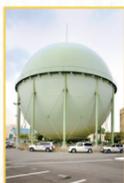
導管*

LNG基地から、皆さんの街にガスを送り出すガス管。金属製で曲げても強く、大地震にも耐えます。



ガスホルダー*

ガスを一時的にためておき、たくさん使う時間帯に送り出します。地震や竜巻、台風などにも耐える、がんじょうな作りです。



地区ガバナ*

ガスの圧力をさげて、お家へ送っています。東京ガスネットワークのエリアには約4,000基あり、すべて地震計がついています。

低圧導管*

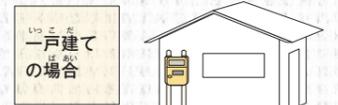
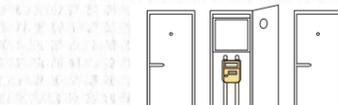
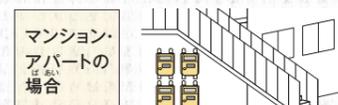
お家にガスを届けるガス管は、しなやかで地震に強く、サビないポリエチレン管を使っています。



ガスメーター(マイコンメーター)*

お家にあるガスメーターは、ガスを使った量をはかるほか、震度5程度以上の大きな地震の時には、安全のため自動的にガスを止めます。

ガスメーターは、どこにあるのかを事前にチェックしておこう!



*一般ガス導管事業者の取り組みを紹介しています